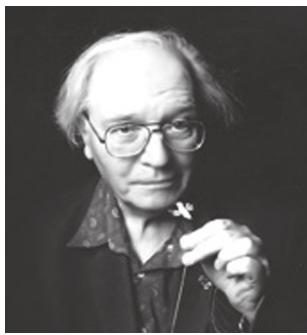
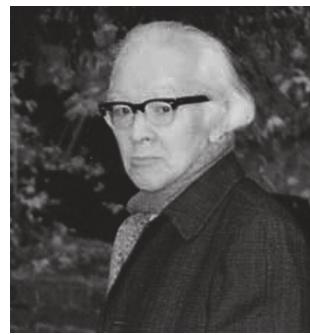


オリヴィエ・メシアン
Olivier Messiaen (1908-1992)



20世紀前半から後半にかけてヨーロッパの現代音楽界を牽引したフランス人作曲家。またパリ国立高等音楽院の教授として多くの作曲家（ブーレーズ、クセナキス、加古隆）を育て、武満徹などにも強い影響を与えた。パリ国立高等音楽院にて、メシアンも奈良の歌唱技術、表現力に注目していた。「ハラウイは私が最も好きな作品のひとつです。奈良ゆみが、その音楽性と天賦の感受性と感動をこの作品に捧げてくれるのは、大変うれしいことです。感動的な、偉大な作品を作ってくれて本当にありがとうございます。賞賛を友情を込めて。」との言葉を残している。

松平頼則
Yoritsuné Matsudaïra(1907-2001)



日本の現代音楽の父ともいわれる作曲家。雅楽と西洋の現代音楽を結びつけた作風を確立。国際現代音楽協会入選作品の日本人最多記録を持つ。オリヴィエ・メシアンとも親交が深く、曲を献呈されるなど敬愛しあう間柄であった。松平は「ゆみの美しい声と表現と解釈には私は真珠の粒の連なっているネックレスを思い出します。どの真珠も燐然と輝いています。

作曲家を悩ます音域のどれもが美しい。」と絶賛し、晩年は奈良ゆみのために、モノオペラ「源氏物語」をはじめ数多くの声楽作品を作曲した。奈良は彼のミューズであり、営巣の演奏者であった。

CHANTS D'AMOUR

宇宙をめぐる愛を歌う



ソプラノ 奈良ゆみ *Yumi Nara*

相愛大学声楽科卒業後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に入学、メシアンに注目される。以後、パリを拠点としてヨーロッパ各地で演奏活動を展開。色彩感にあふれた声と創造的な表現力は、とりわけ現代音楽の分野で注目を集め、デュサン、ダオ、エロワ、松平頼則、平義久をはじめ、多くの現代作曲家から曲を捧げられている。

パリ・オペラ座で演奏されたメシアンの『ハラウイ』をはじめとして、シェーンベルク『月に憑かれたピエロ』、オハナのモノオペラ『三つの御花の物語』、『サティとフランス六人組』やラヴェル『シェヘラザード』などが高い評価を受けている。さらに、西鶴の『好色一代女』のテキストを使ったジャン=クロード・エロワの『仏明会』や、松平頼則のモノオペラ『源氏物語』の歌い手として、日本の音楽・文化が西洋の現代音楽と結びつく可能性を示した。

東京でドビュッシー『ペレアスとメリザンド』、（ジャン・フルネ指揮、東京都交響楽団）を歌う他、日本各地でクリエイティヴなテーマでリサイタルを行っている。パリで開催されたメシアン生誕100年記念オープニング・コンサートでは『ミのための詩』（Pf：ロジェ・ムラロ）を歌った。

CD録音も多く、『ドビュッシー歌曲集』（Pf：クロード・ラヴォワ）は、『ル・モンド』仏音楽誌で最高推薦盤に挙げられている。

<http://www.yuminara.com>



ピアノ 岡本佐紀子 *Sakiko Okamoto*

大阪音楽大学ピアノ科卒業。1998年度文化庁芸術家在外派遣研修員としてローマ、また2009年度ロームミュージックファンデーション特別在外研究員としてパリにおいてコレペティトゥアとして研鑽を積む。ローマではローマ歌劇場首席コレペティトゥアのスティーヴン ローチ氏に、パリでは国立パリ歌劇場コレペティトゥアと国立パリ音楽院教授を務めたモニック ブーヴェ氏、国際的に活躍するピアニストのジェイゴットリープ氏に師事し、留学を終え帰国後も毎年定期的にパリにて研鑽を積んでいる。また歌曲の伴奏者としての活動も広げ、美しい音色と豊かな音楽性に基づいた演奏には定評がある。2017年、読売交響楽団と滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール共同開催で行われたメシアンの大作、オペラ「アッシジの聖フランチスコ」公演に際してコレペティトゥアとして多大な貢献をした。2020年2月には 京都カンマーフィルハーモニー交響楽団の依頼により、同交響楽団定期演奏会においてラフマニノフ作曲ピアノ協奏曲2番を演奏し好評を博す。

現在、兵庫県立芸術文化センター、びわ湖ホール、大阪音楽大学ザ カレッジ オペラハウス他、で活躍中。令和元年度滋賀県文化功労賞受賞。大阪音楽大学非常勤講師。

<https://sakician.jimdo.com/>

■チケット申込み…0836-31-3285(野田)

■メールによる問合せ…reve10192021reve@yahoo.co.jp (レーヴ事務局)

主催：レーヴ 後援：宇部市教育委員会 大阪音楽大学 大阪音楽大学同窓会《幸楽会》

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、入場の際、マスク着用・検温・消毒をお願いしております。